



学校だより2月号

令和5年1月31日
横浜市立六つ川小学校
ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawa/>

学校教育目標

みんなでチャレンジ 六つ川の子
(地域を愛し、主体的に考え行動する人を育てます。)

子どもの学びの様子から感じたこと

横山 和正

国語で、伝統工芸について調べたことをまとめ、紹介する授業をしました。インターネットや図書資料で調べたことを、タブレット端末を使ってまとめました。箱根細工や、江戸切子、輪島塗などの工芸品の特徴やつくり方の手順、いつごろからつくれ、どのように使われてきたかなどを調べ、1ページにまとめました。タブレットを使うと手書きに比べて短時間で見やすく作ることができます。読み手が見やすいように分かりやすくすることも、めあての一つでしたので、工芸品の製作の手順や特徴が分かりやすくなるように、自分が書いた文に写真を入れました。子どもたちは、こうした作業に手慣れたもので、思った位置に写真を入れるのはもちろんのこと、必要な部分を切り取ったり、大きさを変えたり、写真に文字を付け加えたりと加工することも、あっという間に行っていました。子どもたちがタブレット端末の操作に慣れていることに感心させられました。

子どもたちの作成の様子の中で一番驚いたのは、インターネットや図書資料で調べたことをスクリーンショットや写真で一時的に保存し、それを見ながら文を考え、終わったら削除していることでした。タブレット端末が一人一台配付される前は、調べたことをメモすることが必要でしたし、メモしながら内容を確認し、頭の中に知識として入れていたのだと思います。今は、メモをとり知識として頭に入れなくても、必要に応じてデータを端末に保存し見返して活用することが手軽にできる便利な世の中になったことをつくづく感じました。

そうした手慣れた様子が見られた一方、「先生、この字は何て読むのですか。」「これは、どういう意味ですか。教えてください。」などと、書かれていることを理解するのに難しさを感じている子どもがたくさんいました。インターネットの情報は、子ども向けに書かれているとは限らないので、丁寧な解説がなかったり、文や言葉が学年に応じていなかったりしているため、子どもたちの理解力では十分な理解ができないからだと感じました。こういう面を考えると、学校図書館にある図書資料の方が子どもにとっては便利なのかもしれません。

昔と比べ、子どもが学校でも家庭でもタブレット端末に触れる機会が多くなり、扱いに慣れています。ですから、本や新聞等などを読むことで、語彙を増やしたり、熟語や慣用句などに触れたりすることを通して、読む力や内容を理解する力など基本的な学力も伸ばしていけたらさらによくなります。学校でも、今の時代に対応する力を育てつつ、基本的な学力も身に付くよう育てていきたいと思います。